



輝く笑顔 深まる交流 6/9 (土) ～滋賀県バレーボールフェスティバル～

「滋賀県バレーボールフェスティバル」が新旭体育館で開催され、市内のスポーツ少年団をはじめ、県内のスポーツ少年団の子どもたちが、バレーボールを通して交流をしました。
ゲストに東レアローズの選手の皆さんをお招きし、交流ゲームも行われました。子どもたちのキラキラ輝く笑顔がたくさん見られた一日でした。
(市民スポーツ課)



言葉に込められた思い 6/9 (土) ～高島子ども藤樹会～

藤樹先生の生き方の学習を通して、心豊かなたくましい人間性を育成することを目的に開催する「高島子ども藤樹会」にたくさん子どもたちが集まりました。
藤樹先生ゆかりの史跡を見学し、藤樹書院では先生も学ばれた論語の素読・暗唱を行いました。また、自分の名前の一文字を色紙に砂絵で書き、文字の美しさや両親が名前に込めてくれた想いを再確認しました。
(青少年課)

地域を学んで育つ子 6/23 (土)・24 (日)



子どもたちが地域の自然や歴史を学習し、地元への愛着を持ち、集団生活における社会性や自立性を養うため、「高島子ども探検隊」、「たかしまトライっ子クラブ」の2つの体験活動を実施しています。

「探検隊」では、今津の椋川山の子学園を中心に、地元の方によるわら細工教室や川で魚釣り体験を行い、高島市の自然を五感で感じました。「トライっ子クラブ」では、安曇川と高島にある継体天皇の史跡を巡り、お昼には古代米のおにぎりや地場産の野菜を使った食事を頂きました。
(青少年課)

手作り「七タコンサート」 7/6 (金)

公立高島総合病院の外来待合ホールで、看護部を中心にボランティアの協力を得て、手作りの「七タコンサート」が開催されました。
このコンサートは入院療養中の患者さまや外来診療等で当日ご来院の方々に、病院から心の和むひとときを提供するために開催しており、ご来場の方もまじえて、クラリネットや手話で歌を歌い、なごやかな時間を過ごしていただきました。
(公立高島総合病院)



百年後も美しい琵琶湖でありますように 7/1 (日) ～全国一斉湖岸・海浜等清掃旗揚げ式 in びわ湖～

11月10日(土)・11日(日)に開催される「第27回全国豊かな海づくり大会」に向け、びわ湖をきれいにする運動として、市民・各種団体・企業など約500人が参加し、今津町南浜湖岸で「全国一斉湖岸・海浜等清掃旗揚げ式 in びわ湖」が開催され、マキノ東小学校の児童が琵琶湖の環境保全を呼びかけるメッセージを発表しました。



美しい琵琶湖を私たちの手で守っていきましょう。

写真館 まちなタ

あんなできごと、こんな人。まちで起こったホットなニュースを紹介します。ニュースは皆さんから大募集!! あなたのとびつきりを紹介してください。

泳いで・こいで・走って 7/1 (日)

高島B&G海洋センターおよびその周辺地域を会場に、「2007びわこトライアスロン&ちびっこチャレンジ in 高島」が開催されました。大会当日は絶好のレース日和となり、家族の熱い声援の中、子どもたちの元気な姿が見られました。今年は12府県から274人が参加され、市内からも17人が参加されました。
市内参加者の成績は、次のとおりです。

- 【びわこトライアスロン】(対象：成人) 参加179人
30位 西村勝也さん 1:28'21 118位 白井善幸さん 1:43'33
140位 伊藤益枝さん 1:48'18 161位 木下典彦さん 1:54'37
- 【ちびっこチャレンジ】(対象：小学生)
- 低学年(参加49人) 市内参加者7人
3年生男子 7位 古川展寛さん 3年生女子 2位 肥後朱音さん
3年生女子 12位 海内彩里さん 2年生女子 2位 内田琴絵さん
2年生女子 5位 太田小雪さん 1年生女子 1位 森永ののかさん
1年生女子 6位 海内啓里さん
 - 高学年(参加46人) 市内参加者6人
6年生男子 1位 内田有貴さん 5年生男子 1位 内田弦大さん
5年生男子 3位 西川 翔さん 5年生女子 4位 古川綾佳さん
4年生女子 3位 山田瑞季さん 4年生女子 6位 森永璃子さん



▲兄妹3人共が上位入賞を果たした、内田兄妹



▲語り・野口区民有志 画・早藤典子氏
滋賀県所蔵 サイズ・200cm×85cm

(注) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとへの思いやイメージを集約し、絵画によって表現したものです。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて表現されている部分があります。

今回は、マキノ町野口の「ふるさと絵屏風(注)」をご紹介します。野口の絵図は、滋賀県の「ふるさと湖西再発見調査研究事業」として滋賀県立大学等の協力を得て平成15年度から制作に取り組みされました。
絵屏風の左下から右上にかけて、野口・路原・国境の各集落を配置するとともに、春夏秋冬の移ろいが表現されています。春先には柴を刈り取りニユウ(柴を積み上げ雨を遮ったもの)を作って保管し、冬の焚き物(燃料)としました。また、谷あいの集落で農地が少なく、炭焼きは現金収入を得るために欠かせない仕事でした。いくつもの炭焼き小屋から煙が立ち上っており、炭を海津や小荒路へ運ぶ荷車屋さんの姿が見えます。集落の中央を走る道路は現在の国道161号で、敦賀から饗庭野へ演習に向かう隊列が通りました。村人は休憩する隊列にお茶を出して労をねぎらったそうです。冬には道路が雪でふさがり、子ども達はスキーを履いて通学したそうです。春を迎える頃には、集落総出で国道の道掘り(人が通れるぐらいの幅の除雪)が行われ、久々に踏みしめる土の感触に、春の訪れを喜んだことでしょう。
次から次へと思い出し、身振りを交えて話しているうちに、最初は役場から頼まれて仕方なく取り組んでいたのに、取り組んでよかったと集落の方々はおっしゃいます。地域では、子ども達を集めて昔話をしたり、高齢者サロンなどで見返したりして、厳しい中にもあたたかく懐かしい谷あいの暮らしを振り返っておられます。

シリーズ
わさとの郷
その十
ふるさと野口
絵屏風